

## 1-10 カンボジア

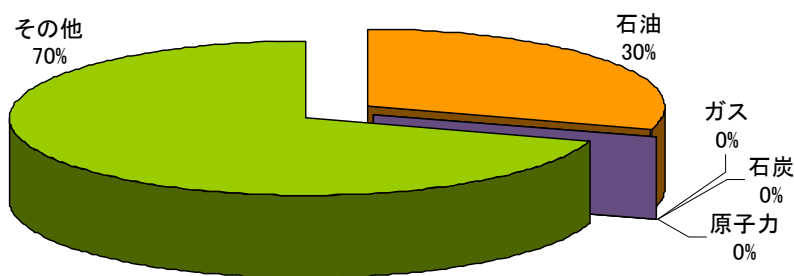
### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

長年にわたる内戦（1970～1991 年）によりエネルギーインフラが大きく破壊され、現在電力を中心に復興の途上にある。2012 年から原油の商業生産が開始される見込みであるが、2008 年の実績によれば、原油は全量輸入に頼っている。

- (1) 一次エネルギー供給量：5.2 石油換算百万トン（2008 年、日本の 1.0%）
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量：0.36 石油換算トン/人（2007 年、日本の 9.3%）
- (3) エネルギー自給率：70 %、石油輸入依存度：102%（2008 年）
- (4) エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量：4.43 二酸化炭素百万トン（2007 年、日本の 0.36%）
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量：0.31 二酸化炭素トン/人（2007 年、日本の 3.2%）

一次エネルギー供給構成（2008 年）



(出所) IEA, Energy Balance of Non-OECD Countries 2010

### 2. エネルギー政策のポイント

- (1) エネルギー政策担当機関
  - カンボジアでは、産業・鉱業・エネルギー省 (Ministry of Industry, Mines and Energy: MIME) がエネルギー政策の企画、策定を担当している。
- (2) 基本政策
  - 1994 年のエネルギー分野の開発計画 (Energy Sector Development Policy) では以下の 4 点に重点を置いている。
    - ①カンボジア国内を通じて安価かつ合理的な価格でエネルギーを供給すること、
    - ②安定的に電力を安価に供給し、カンボジアへの外国投資を促進し、国民経済を発展させること、
    - ③国内市場が必要とするエネルギー資源の探鉱と、環境および社会的に受容可能な開発を促進すること、
    - ④エネルギーの利用効率促進とエネルギーの供給・利用によって生ずる環境負荷の最小化を図ること。
- (3) 最近の動向

- Chevron が、カンボジア沖合タイ湾の石油鉱区 Block A の PSC 契約を延長している。同社は、2002 年以降、1 億 2500 万ドルを投資しており、評価の結果、本鉱区の北東側、南東側部分については資源が少ないとしている。しかし、西側部分についてはまだ若干の期待をしている模様。なお、鉱区の権益比率は、Chevron:55%、MOECO Cambodia (三井) :30%、LG Caltex Oil:15%となっている。

### 3. 日本とエネルギー分野における関係

- (1) カンボジア沖合い南西 140km の Block A において、三井石油開発 (株) のカンボジア子会社であるモエコカンボジア石油 (株) (MCC) は、30%の権益を保有し、オペレーターである Chevron Overseas Petroleum (Cambodia) Ltd. 、**KrisEnergy (Cambodia) Limited** および GS Caltex Corporation とともに原油・天然ガス・コンデンセートの探鉱事業を推進中である。
- (2) 省エネセンター、NEDO、国際協力銀行など、カンボジアとの間、省エネ及び再生可能エネルギー分野における国際協力を行っている。

## 2. 主要エネルギー指標

(2008 年)

(1)	一次エネルギー総供給量	5.2	石油換算万トン
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.36	石油換算トン/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.69	石油換算トン/千ドル
(4)	エネルギー自給率	70	%
(5)	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (2007 年)	4.43	二酸化炭素百万トン
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (2007 年)	0.31	二酸化炭素トン/人
(7)	エネルギー源別構成率		
	石炭	—	%
	石油	29.7	%
	ガス	—	%
	原子力	—	%
	水力	0.1	%
	再生可能エネルギー等	70.2	%
(8)	エネルギーの輸入依存度	31	%
(9)	石油の輸入依存度	102	%
(10)	輸入原油の中東依存度	—	%
(11)	原油輸入先	第 1 位	—
		第 2 位	—
		第 3 位	—

(出所) (1) ~ (4) および (7) ~ (9) は IEA, Energy Balance of Non-OECD Countries 2010  
(5) ~ (6) は IEA-「CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion 1971-2006」2009 Edition